

活動報告

村田町地域おこし協力隊 大平直也

令和6年6月28日

目指したもの



協働

「人」がいて「地域」がある。
「出会い」から「地域の魅力」が生まれる...
という理念の元、3年間活動を展開

報告 目次

- 1, 村田町観光まちづくり大使制度創設
- 2, 町の方々と共に
 - ① 白鳥神社清掃活動
 - ② 城山公園ゴミ拾いウォーキング
- 3, 各種イベントの企画開催
- 4, 社会福祉協議会行事への参加
- 5, 地域事業所との連携
- 6, 谷山自然公園の再整備と再興を目指して
- 7, やりたかったこと、やり残したこと
- 8, 今後の展望

1, 村田町観光まちづくり大使 制度を創設

募集しています！
「村田町観光まちづくり大使」

①～③に当てはまるあなた！ぜひ！お手伝いください！

- ① 村田町の観光まちづくりを「応援したい！」
村田町の観光、物産の情報を発信してもいいよ！と思っていただいたあなた！
- ② 18歳以上の「成人」のあなた！
- ③ 村田町観光物産協会からの電子メールを受信できるよ！というあなた！

村田町観光まちづくり大使
むらた たろう
村田 太郎
Taro Murata

「村田町観光まちづくり大使」ってなに？
Q&Aはこちら

Q なにをすればよいの？
A あなたの実施できるやり方（SNS、友人や職場、家族との会話、口コミ等）で、村田町の観光、物産のPRをしていただければOK！
もっとこうしたら村田の観光よくなるのに、といった情報を村田町観光物産協会に教えていただけたらとっても嬉しいですよ！

Q 「大使」って、任期とかあるの？
A 任期はありません。メールで申し込めば、活動を終了できます。

Q 「大使」って、報酬がでるの？
A ごめんなさい。無報酬での活動をお願いします。

Q ほんとになにも貰えないの...？
A 「大使」の身分証として、村田町観光物産協会オリジナルデザインの身分証を応募者にプレゼントします。（PDFデータをメールでお送りします。印刷の上、御利用ください。）
今後は、村田町観光物産協会から、大使の皆さんにお得な情報！をメールでお送りできるよう頑張ります！

【応募方法】
右のQRコードから、フォームに必要事項をご入力ください。
フォームにはアンケートがあります。ご協力をお願いします。

【個人情報の取扱い】
村田町観光まちづくり大使として登録いただいた個人情報は、この事業にのみ使用することとします。協会は登録者の名簿を作成し、適切に管理します。また、ご本人様の同意なしに、法令等に基づかない形で第三者への提供は行いません。
村田町観光まちづくり大使の登録者に対し、協会からメールを送付させていただくことがあります。

お問い合わせ先
村田町観光物産協会 事務局
(村田町役場 まちづくり振興課内)
TEL 0224-83-2113

ALL MURATAでまちづくり
村田町の観光物産協会
MURATABI murata-kankou.com

むらたまち観光まちづくり大使とは... 学生ボランティアを誘致し町の活性化へ繋げたい

東日本大震災による津波被災地の復興を祈念して八戸から千葉犬吠崎までを約160万歩かけて歩き切りました。その道中では数多くの被災地支援の形態と出会いました。中でも大学生達により同一の地域において継続的に行われる支援の取り組みは単にヒューマンパワーとしての補完に留まらず、多世代、地域間交流へと発展し心の復興に繋がっていたのです。結果、元は一支援者の立場であった彼らは以後交流人口から関係人口へと変化し、その後に就職先として希望するまでに至る事例も少なくはありません。それは首都圏では忘れられているものを感じ取れる貴重な経験をしたからであると想像します。この支援側と被支援側における効果を目の当たりにし、大学生の社会活動への参加を推奨する昨今の趨勢を活用し町づくり地域振興を実現していきたい...と考えたことによります。

背景

大学側の現状

学生のボランティア活動への参画に対して単位の取得や優遇制度を設けてその活動を積極的に促す大学が増加している。

例) 東北福祉大学 地域創生課 國學院大學 観光まちづくり学部
宮城教育大学 共創支援課 大正大学 地域創生学部
東北学院大学 地域連携課 淑徳大学 地域連携室
東北工業大学 地域連携センター
宮城学院女子大学 社会連携課 敬愛大学 地域連携センター
東北大学 ボランティア活動支援センター

しかしながら

ら、コロナ禍の襲来により活動の自粛や廃止となる団体も増加。長年継承されてきた活動の文化もこの二年間の空白が生まれたことで寸断の危機

現在はコロナ感染の停滞傾向から収束が期待されそうな気配もあり、大学側も学生側も失われた活動のステージを模索している状況でもある。

学生ボランティアを積極的に誘致する

この現状から大学との連携を深め、町の地域行事に積極的に大学生ボランティアを募集することで実際に村田町を体験し、今後の交流人口へと繋げていく

むらたまち観光まちづくり大使(仮称)

北三陸久慈市ふるさと大使の制度を参考に、ボランティア参加の学生を対象に観光物産協会名義で「むらたまち観光まちづくり大使」として任命し「任命状」等を発行。

大使の任務

大使は村田町の魅力の発見、発掘し SNS等にて積極的にPRする。
大使の名刺デザインを付与し、その名刺の提示により観光物産協会会員店舗での割引を受けられるなどの優遇制度を設ける。

期待できる効果

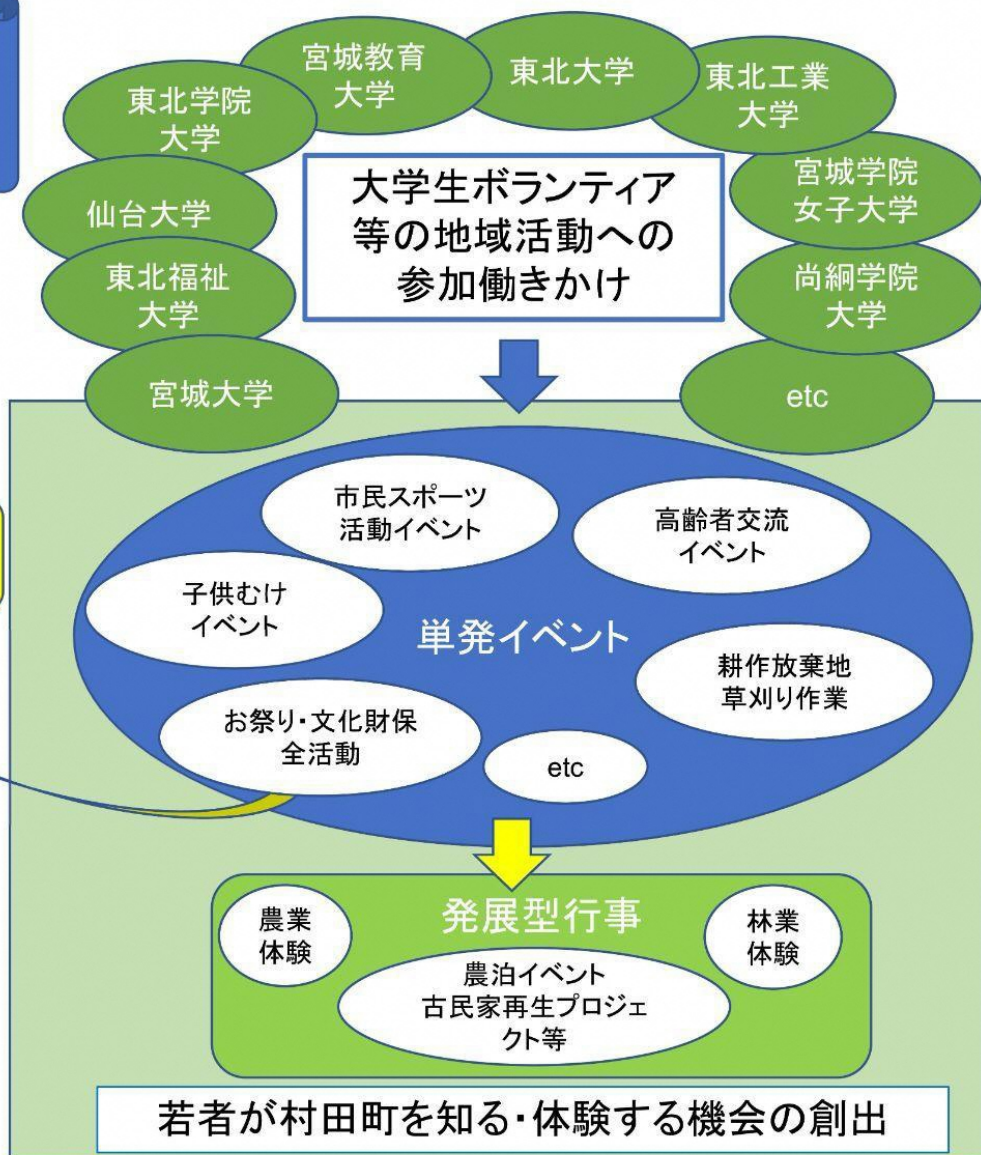
交流人口・関係人口
の増加へ

※ 伝統文化の保全へ

コロナ禍収束後は
首都圏大学にも祭り、農泊ボ
ランティア&スタディツアー等
として地域交流行事も絡めて
募集をかける

日本財団 海と日本プロジェクト
「海の祭ism」による展開を参考にし
たい。

<https://www.matsurism.com/>



若者が村田町を知る・体験する機会の創出

※ 将来の村田町での
就職・移住・定住
の潜在的人材として
期待

村田町への愛着

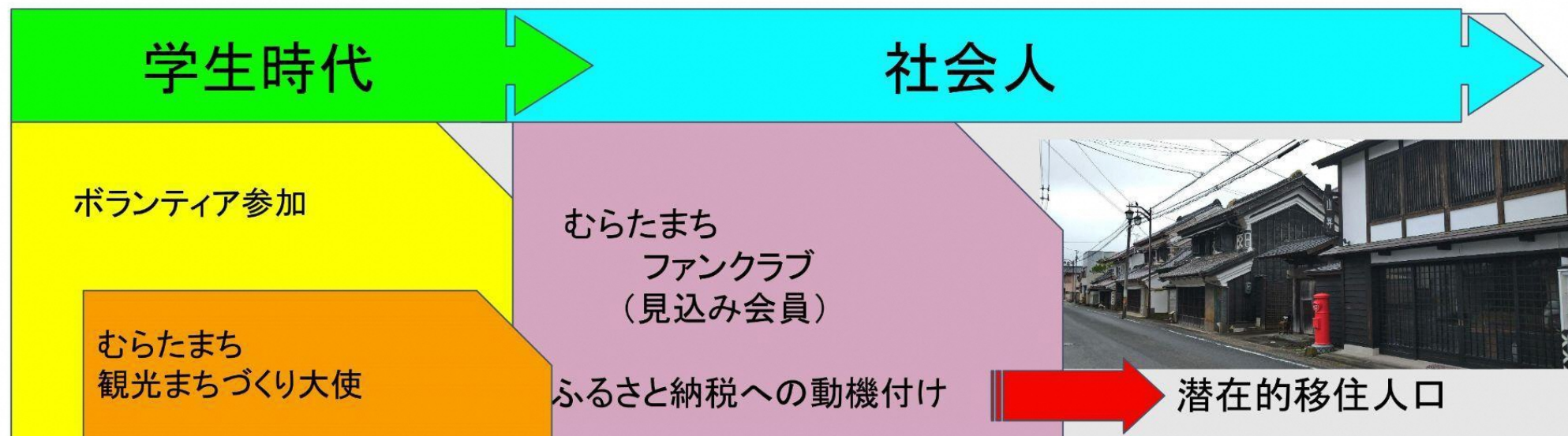
村田町への
継続的な関わり

むらたまち観光
まちづくり大使

SNS などにより
村田町の魅力を発信

※村田町の観光振興へ

交流人口から持続的な関係人口へ



仙台界限10大学と窓口連携し、3年間で30回を超える地域活動に大学生の参加を募り多くの大学生が村田町でボランティア活動を実施した。



七福神米プロジェクトはこの大学生連携における最大のコラボレーション先となりました。数多くの大学生達の参加に繋がり多くの意見を集める機会になりました。

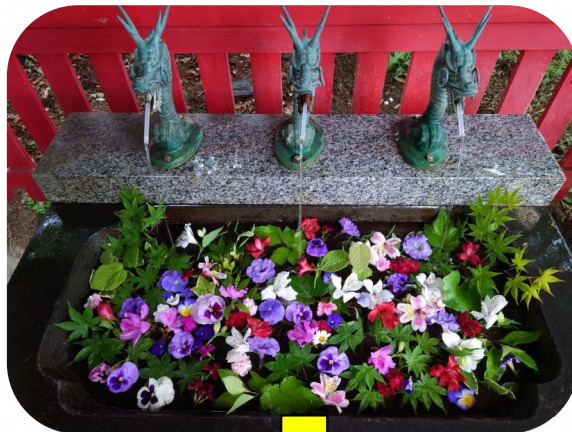


4年ぶり開催となった陶器市では、宮城大学と東北福祉大学の連合チームにより空き店蔵を活用した大学生達によるプロジェクトも実現し陶器市にいつもと違った賑わいを演出することができました。

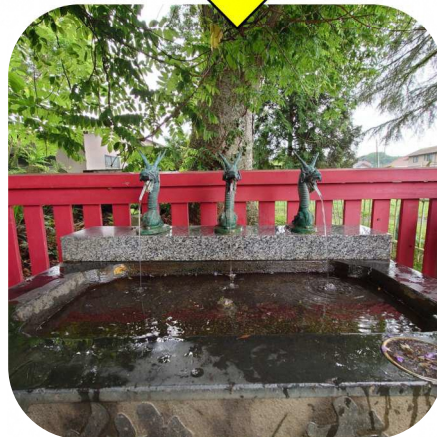
この実現のためにカクショウさんと桜中味噌店様より多大なるご協力をいただきました。感謝申し上げます。

2, 町の方々と共に

① 白鳥神社の清掃活動2022.4月～6月



花手水も一瞬にして撤去



地域を愛する町民の方が独りで連日早朝境内のお掃除を自発的に実施しておられたのに心打たれお手伝いする事に。当神社の宮司に許可を戴いての作業となりましたが、徐々に掃除の参加人数も増え、そして綺麗な花手水が評判となり町内外から訪ねてくる方も増加。それを見知ったラジオ局も取材に出向くまでの動きとなりましたが、この評判を快く思わなかった所から不当な介入を受け自発的なお掃除隊はたちまち解散の憂き目に。一日にして花は撤去されてしまいました。

地域の方の地域を愛する想いによる自発的な活動として好事例であったためにこのような結果となったことは3年間の活動において最も残念なものとなりました。

② 城山公園ゴミ拾いウォーキング 2024/6/15

and 災害伝言ダイヤル体験実践



神社清掃活動が残念な結果となってから時を隔てること2年。任期満了を前に町の象徴的な場所でもある城山公園でゴミ拾いウォーキングを企画として実施しました。SNSなどで緩く告知したところ早朝にも関わらず当日は町内外から総勢12名が集まり小一時間語らいながら楽しく実施しました。この機会をきっかけに今後の継続的な実施が望む声があり、町民相互の交流の機会や場所の必要性を改めて痛感しました。またこの日の機会を利用し災害に対する意識向上も含めて毎月1日15日に体験使用ができる「災害伝言ダイヤル」の実演をし利用方法をご紹介しました。このような形で公園の美化を皆で取り組んで行こうという機運に繋がっていくことを願っています。

③ 初めての出来事 2024/6/21



毎朝の神社清掃が途絶えて以降の2年間はほぼ主に町の中心部を毎日ゴミ拾い散歩を実施してきました。城山公園のゴミ拾いウォーキング企画もその経験からの発想でした。毎朝ほぼ同じコースで一万歩を目指して実施していましたが、拾っても拾っても一万歩も歩くとゴミは減りませんでした。コロナ禍明け以降は特にタバコのポイ捨てが目立つようになりました。塩内公園では空き缶ペットボトルに関しては年中絶えることなく落ちていましたが、この任期満了最終月となったこの6月。公園のあずまやのひとつにペットボトルにアジサイが添えられて飾られていました。毎朝の朝活で初めて感動を覚えた出来事でした。些細なことではありますが、このようなちょっとした意識が伝播することを祈っております。

3, 各種イベント企画開催

協力隊として着任後、至って抽象的な「観光」というミッションの元、イベントの企画開催を求められました。イベントの開催そのものを目的とするような短絡的なものは手掛けるつもりはなくそれぞれ私なりに意味を考えながらのイベントを展開しました。

① 谷山自然公園の魅力を発信 2022/3/19



村田町に着任後、私の関心を最も惹きつけたものが「谷山自然公園」でした。2021年8月2日にとある方から雑誌りらく「山便り」(2021.5月号)で紹介されていた谷山自然公園に存在するという石橋(しゃっきょう)に強烈に心を揺すぶられました。しかし現在は打ち捨てられたような状態の同公園に於いて一般にその存在を知る町の方もいない中、縁あって上記記事の執筆者深野稔生氏と知り合う事ができその方からの情報を元に3度目の挑戦で辿り着く事ができました。その時の感動を伝えるべく開催したのがこの企画でした。その深野氏をお招きしての講演会で谷山自然公園が貴重な自然の宝庫であることも再認識し、かつて町民憩いの場であったこの地が現在のような荒れ果てた状態となっていることに心痛め再生したいと強く願う機会となりました。

② みらい館のホールを活用したクラシックコンサートを提案

2022/6/19



元々ご縁の有った亘理のNPO法人の知人よりイベント告知のためのクラシックコンサート開催ができる会場の相談を受け、歴史みらい館を紹介させていただきました。その結果、ホールを活用した新たな取り組みとしての企画に繋がり、当日は多くの方のご来場がありました。歴史みらい館が今後、広く町内外の方々にぎわう空間となり交流が拡大することを期待しております。

③伊達宗高公とその妹・牟宇姫との往復書簡から読み解く人物像 講演会開催

2022/8/11



村田町の英雄的存在でありながらあまりその人物像についての詳細を伝え聞く事はありませんでしたが、角田市郷土資料館の碓子館長(当時)との出会いにより実に劇的なエピソードを聞くことができました。牟宇姫との間に残されている往復書簡から読み取れる人物像について是非村田町で語っていただきたいという思いから実現した企画でした。定員の30名はあっという間に埋まり大変にご好評をいただきました。また「宗高公へ手紙を送ろう」という副題としましたが、そこに寄せられたメッセージは村田町観光案内サイトMURATABIに「8月11日講演会に寄せられた宗高公への熱いメッセージ発表します。」として公開しております。

今回のこの講演会を企画し抱いた感想として、これ程までに魅力的な内容であれば紙芝居等として子どもたちへの読み聞かせや歴史みらい館でも専用ブースを設ける等の価値があると感じました。

④真打ち落語家による「村田元気座寄席」を2度開催

2022/11/13

2023/ 6/16

20年来の交流がある三遊亭遊吉師匠の仙台での公演に併せて村田町にて寄席を企画開催しました。

身近に本格落語に触れていただく機会の提供を目指すと共に地域連携を盛り込むべく初回はマルイチ酒店様との連携の元、「お酒と落語」をテーマに武家屋敷にて。2回目の開催では、民話の里で活躍する協力隊員の平塚氏の協力の元、「お酒に姥ケ懐そばと落語」として開催しました。両会とも満席でのご参加となりその後の遊吉師匠との交流会でも楽しく参加者全員で語らうよい交流の場とすることができました。

第二回 村田元気座寄席

三遊亭遊吉が
実力派真打
昨年引き続き村田町へ
第二回落語独演会落語とお酒：
そしてお蕎麦を楽しむ大人の会

お酒に姥ケ懐そばと落語
お蕎麦！分くらにうい！

令和五年六月十六日 金曜
開場十八時 開演十八時三十分
終演二十一時

第一部 落語
第二部 交流会（十九時三十分）
お酒と村田のお蕎麦を味わいながら遊吉師匠
に落語の世界について聞いてみよう！

和風レストラン 一 様

村田町大宮村田東八十六の七

定員 二十名 五千円
事前申込み 五千円
本戸銭 地域おこし協力隊 大平直也
主催 和風レストラン 一 様 様
協力 HIRAやば 平塚 優 様
協力隊 大 平

問い合わせ
電話070-5570-0041
お申込み 上記QRコード
又は右記問い合わせ



⑤児童書 みちのく妖怪ツアー 関連イベント開催(2022/7～8)



前年の2021年に仙台文学館においても好評を博していた児童書「みちのく妖怪ツアー」に関連したイベントを村田町で企画しました。

- みらい館で妖怪パネル等を設置する等展示 7/23～8/11
- 三人の著者によるトークイベントatみらい館 8/7
- 蔵の町並みでの妖怪クイズラリー 8/13

夏休みでもありいずれも多くの親子連れの参加をいただきました。元より私が公共図書館(室)の充実度がその地域の文化度の指標と捉えており、このイベントを通じて図書や読書に歴史みらい館を通じて親しむ機会を創出したい...という狙いをもった企画でした。



⑥深野稔生氏講演会「山、人生、生涯現役」2023/1/23

新春！村田元気座講演会

あの雑誌りらく連載「山便り」の深野稔生氏が語る

山、人生、生涯現役

深野稔生の Slow Trek
山便り
番外編

57編の山紀行
月に臥し
雲に眠る

てっぺん
駆け上った記

深野稔生

お申込みは
こちらから



深野稔生著「てっぺん駆け上った記」
(白山書房)より

深野稔生(ふかのとしお)氏プロフィール

80歳の現役登山家！
社団法人日本山岳ガイド協会所属
日本登山インストラクターズ協会会長
仙台YMCA山岳会元会長
無名山塾仙台台長
広告デザイン事務所(株)深野プロ会長
「宮城の山ガイド」「産土の山を行く」
など著書多数。

・日時 令和5年1月22日 日曜
開場13時30分 開演14時 終演16時頃予定

・ところ 村田町武家屋敷
村田町大字村田西六十六番地三

・定員 30名

・会費 千円

・主催 村田町地域おこし協力隊 大平(おおひら)

私を谷山自然公園の石橋(しゃっきょう)へと導いていただいた恩人である80歳(当時)の現役登山家深野稔生氏をお招きして「山、人生、生涯現役」というテーマでの講演会を開催しました。この日も会場の武家屋敷は定員の30名で満席となりご好評をいただくことができました。80歳という御年齢で今なお全国の山々を渡り歩く深野氏から山の魅力とその生涯現役たる活力の秘訣を語っていただきました。その生涯現役の秘訣は「頭を使いましょう、話しましょう、歩きましょう」であると。以下の文字はその秘訣を一文字に集約して私が作成した造字として当日紹介したものです。



4, 社会福祉協議会行事への参加

2023/12/7 小泉長寿なかよし会



社会福祉協議会からの依頼により社協事業に参加しました。

2023/7/18 悠々元気くらぶ(荒町地区)

2023/7/31 悠々元気くらぶ(足立西地区)

2023/10/2 悠々元気くらぶ(沼辺北地区)

2023/12/7 小泉長寿なかよし会

2024/3/25 悠々元気くらぶ(石生地区)

各地区のご高齢者の方々と交流の機会となりました。元気座バンド部として参加し皆さんと歌で楽しむ内容で展開していましたが、2024年3月25日の石生地区の回では趣向を変えて東北福祉大学まごのてくらぶの学生の方々に参加を依頼し地区のご高齢者の方々と大学生との交流の場にしました。結果、地区の方と大学生の直接的な交流に繋がり、その後2024年6月8日には社協事業とは関係なく石生地区のご高齢者と学生達との直接的な交流会に発展したことは最大の成果でした。ボランティア活動として招いた大学生が交流人口から関係人口へと深化した事例として私が目指していた事を現実化できた事例となりました。

2024/6/8
石生地区と大学生の
交流会



2024/3/25
悠々元気くらぶ
石生地区

5, 町内事業所との連携



2024/5/11

村田町に所在する介護事業所のあいやま様より「あいやまカフェ」でのボッチャ体験イベントのサポート依頼を受け、その協力を仙台大学の小池教授に相談した結果、仙台大学レクリエーション部から5名の大学生の参加が得られイベントとして大成功となったとあいやま様からも大きな評価を得ることができました。この行事実施に際しボッチャ用具の調達に関してNPO法人むらたスポーツクラブを紹介し町の機関の有効活用へと繋ぐことができました。

私の得意とするボランティアコーディネーションのスキルを最大限に発揮することができた事例となりました。

取材：2023/10/31.11/9@村田町足立谷山周辺/大河原支局長 記者 伊藤慧道



信仰

ハイキングコース沿いに立つ松尾重
音堂には、馬を飼う人たちが奉納し
た絵馬が数多く残る。釘内で現存す
る最古の建築物だが、お堂は朽ちて
おはし台が傾斜が激しい。

20



河北新報で特集記事が掲載されて以来、町内外の方々から多くの反響がありました。町内外からの問い合わせも多く、谷山自然公園の再整備などの要望書を準備しておられた方からご連絡をいただくまでに発展しました。ガイドの依頼も多く寄せられ2024/6/28現在において依頼数18回総勢として90名となっております。登山愛好家のアプリYAMAPやヤマレコ上でも多くの投稿が見られるようになりました。谷山自然公園の持つ魅力が広く認識されることに繋がったことは3年の活動において最大の功績であったと思っております。

	日付	人数
1	2023/12/6	2名
2	2023/12/13	6名
3	2023/12/18	5名
4	2023/12/23	3名
5	2023/12/24	2名
6	2023/12/24	2名
7	1/6	4名
8	1/14	18名
9	1/16	1名
10	2/3	6名
11	2/6	11名
12	2/18	2名
13	4/3	13名
14	4/28	2名
15	5/8	4名
16	6/2	7名
17	6/16	1名
18	6/23	1名
		90名

7, やりたかった事、やり残したこと

有りえない事と承知の上ではありますが、3年間という任期における活動から私が辿り着いた「やりたかった事、やり残した」を申し述べます。

この3年間で多くの事を学び体験させていただきました。その中でも最大の想いは「谷山自然公園」の魅力に触れられたことです。

もしも協力隊として、あと2年という猶予が与えられるとしたら谷山自然公園の魅力発信を通じてその再整備への可能性を追求し、それと抱き合わせでの「野外活動センター」を谷山自然公園のビジターセンター的な利活用を目指してみたかった。特に天然の石橋としての名跡は県内でも数カ所あれど、谷山の石橋(しゃっきょう)程、アクセスのよい所は存在しません。

石橋(しゃっきょう)への散策や界隈の溪谷での清冽な水と親しむアクティビティの拠点として野外活動センターは施設として立地として最適です。

ハードとして抱える知る範囲での各種問題は仮設トイレ、ウォーターサーバー等の利用で隣接するキャンプ場と併せてのビジターセンターとして機能は十分に果たせると想像しております。任期満了を迎え、目指せるのならば目指してみたかったと思に残すところであります。

8, 今後の展望

村田町の協力隊として3年間活動させていただきました。その中での最大の反省点として掲げるならば、任期満了時にどうなりたいのかという明確なビジョンを持ち合わせていなかったことです。時すでに遅しではあり、村田町に留まることはできません。

しかしながらこの三年間で町の方々からは多大なるご支援を賜り、また各種活動に関わらせていただく事ができました。谷山自然公園も然りです。谷山自然公園もかつての憩いの場として取り戻したいという町民の方も見られるようになりました。

私自身は村田町にて定住...を選択することはできませんでしたが、その数々の地域活動に今後に関わらせていただきたい、お手伝いをしたいという強い願いがあります。その想いの実現のために既設法人である一般社団法人元気座を宮城県内に拠点を移し、元気座として支援させていただきたいと考えております。

これまで村田町の方々からは多大なるご支援をいただきました。心より感謝申し上げます。今後このような形で関わらせていただきたいと考えております。

ありがとうございました。